

産経国際書会 ～30年の歩み～

- 昭和59年 (1984年)
- 第1回サンケイ国際書展 (新宿区・朝日生命ギャラリー 4/13～5/1)
 - サンケイ国際書会・設立総会 初代会長に北川貞二郎氏が就任 (9/28)
- 昭和60年 (1985年)
- 第1回研修会 (杉並区・文化女子大学付属高校 1/20)
 - 第1回さいたま閨秀100選展 (埼玉県立近代美術館 1/22～27)
- 昭和61年 (1986年)
- 理事長制を導入 林錦洞先生が初代理事長に就任 (11/13)
 - 第1回サンケイ国際書会役員展 (池袋・東武百貨店8階 11月)
- 昭和62年 (1987年)
- 中国青年聯合会主催 第1回日本週間交流書法展 (杭州市・浙江省展覽館 3月)
 - 国際書展東北・北海道展 (仙台市・読売会館5階 5/15～20)
- 昭和63年 (1988年)
- 第2回サンケイ国際書会代表展 (役員展を改称 上野の森美術館 1/17～21)
 - 新聞社が5月に題字を「サンケイ」から「産経」に変更、国際書会も「産経」に変更
 - 第1回西日本展 (兵庫県・姫路市立美術館 6月)
- 平成元年 (1989年)
- 第1回全国書き初め展 (大宮市・ソニックシティ第1展示場 3/29)
 - 第1回中部展 (名古屋市・名古屋電気文化会館 6/13～18)
- 平成2年 (1990年)
- '90ジュニア書道コンクール (書き初め展を改称 台東区・都立産業貿易センター台東館 3/26～31)
 - インドネシア共和国独立宣言45周年記念産経国際書展 (ジャカルタ 5/26～27)
 - 第7回産経国際書展から従来の「春」開催を「夏」に変更 (7/28～8/5)
 - 福岡巡回展 (福岡市・福岡市美術館 9/4～9)
- 平成3年 (1991年)
- 産経国際書会 プラハ展 (チェコスロバキア共和国プラハ市・チェコ国立マネス芸術ホール 1/29～3/10)
 - 第1回瀬戸内展 (広島県福山市・ふくやま美術館 8/27～9/1)
 - 産経 書のシンポジウム'91「書が今みえてくる」 (港区・新橋ヤクルトホール 10/1) パネリスト池田満寿夫先生 (基調講演)
 - 第1回東北展 (仙台市・仙台市民会館 11/26～30)
- 平成4年 (1992年)
- '92横浜国際書展 (横浜市・横浜市教育文化センター 6/16～21)
 - 第9回産経国際書展に高円宮憲仁殿下が初のご高覧 (7/27)、贈賞式・祝賀会 (7/31) にもご臨席を賜る
- 平成5年 (1993年)
- 第10回展記念事業—
- 産経国際書会ワシントン展 『線は語る』近代日本書展 (6/24～7/24 ※以降は全米を5カ年にわたりワシントン州、カンザス州、イリノイ州、バージニア州、ロサンゼルス州等を巡回)
 - 第10回産経国際書展 (7/29～8/9) 出品総数10,439点 (初めて1万点を突破) 贈賞式・祝賀会 (7/30) に高円宮同妃両殿下のご臨席を賜る
 - 関西展 (西日本展を改称 神戸市・兵庫県民会館アートギャラリー 9/8～12)

- 平成6年
(1994年) ○ プロジェクトチーム発足 産経国際書会の今後の発展と存在価値を定着させる一助として
常務理事会を中核として発足
- 平成7年
(1995年) ○ 関西展は阪神大震災のため中止、被災者の公募出品への出品料を免除
○ 「日・中・韓 代表作家書法展」 (第12回産経国際書展東京展と併催 7/30～8/7)
○ 「シンポジウム・王羲之はいま」 (“ ” 贈賞式と共催 8/3)
○ 田中鳳柳先生が理事長に就任、林錦洞理事長は名誉理事長に (11/29)
- 平成8年
(1996年) ○ 第10回産経国際書会代表展 (併催) 特別企画 中国明清書画展
(上野の森美術館 1/19～24)
○ 日中韓代表作家展 (併催) 産経国際書会代表展 (ソウル・韓国芸術殿堂 4/10～17)
○ 伊勢の書展 「伊勢神宮内宮御鎮座2000年奉祝記念奉納」行事
(三重県伊勢市・サンアリーナ 10/19～21)
- 平成9年
(1997年) ○ 会友制度を導入し、会友の集い開催 (池袋・メトロポリタンホテル 4/30)
○ 日中韓代表作家展・産経国際書会代表作家中国展 (北京市歴史博物館 10/10～16)
○ 5カ年にわたる全米各地を回ったアメリカ巡回展が10月22日に無事終了
○ 第1回産経国際書会新鋭作家展 (東京都美術館 12/10～16)
- 平成10年
(1998年) ○ 第15回産経国際書展 (池袋・サンシャイン文化会館 7/25～30)
—15周年記念事業として以下の3事業を開催—
○ 産経「七人展」～産経国際書会の歴史を築いた作家達 (東京展と併催 7/25～30)
○ 赤羽雲庭展 遺作60点 (東京展と併催 7/25～30)
○ 産経国際書会女流展 理事以上18名 54点 (日本橋三越本店特選画廊 8/11～16)
- 平成11年
(1999年) ○ 研修会 (静岡県熱海市・つるや旅館 6/23～24)
○ 第16回産経国際書展 (池袋・サンシャイン文化会館 7/24～8/1)
(併催) 王壽護書画展 (台湾・女流書家)
- 平成12年
(2000年) ○ 産経国際書展 (17回 池袋・サンシャイン文化会館 7/22～30) に内閣総理大臣賞を創設
(贈賞式 7/29)
○ 産経国際書会代表作家台湾展 出品点数197点 (日本作家166点、台湾作家31点)
(台北市・国立國父記念館 9/19～24)
○ 研修会 (山形県上山市・村尾旅館 10/25～26)
- 平成13年
(2001年) ○ 第15回産経国際書会代表作家展 (上野の森美術館 1/17～21)
○ 研修会 (大阪府池田市・不死王閣 10/14～15)
○ 中部展が9年ぶりに復活 (名古屋市・名古屋電気文化会館 10/30～11/4)
○ 齋藤香坡先生が理事長に就任、田中鳳柳先生は副会長に (11/26)
○ 書展「翔」2001年 (新鋭展を改称 港区・都立産業貿易センター浜松町館 12/12～15)
- 平成14年
(2002年) ○ 第1回全日本代表書家作品展 (上海市・上海図書館 12/20～1/4)
- 平成15年
(2003年) ○ 第20回産経国際書展 (池袋・サンシャインシティ文化会館 7/26～8/3)
—20周年記念事業として以下の3事業を開催—
○ 『女流展』 理事以上40点 (銀座・松坂屋別館美術画廊 7/24～30)

- 平成15年 (2003年)
- 全中国代表書家作品展 上海で前年開催の作品展をうけ、中国作家の書展 (上野の森美術館 7/29～8/3)
 - 『何紹基展』 10月開催予定がSARSの影響で翌年に延期
- 平成16年 (2004年)
- 第21回産経国際書展 (池袋・サンシャインシティ文化会館 7/24～8/1) から高円宮妃殿下ご提案の新企画展始まる
 - 第20回記念展特別企画「何紹基展」 (文京区・日中友好会館 9/21～26)
- 平成17年 (2005年)
- 第22回産経国際書展 (池袋・サンシャインシティ文化会館 7/23～31) に初めて高円宮賞 (贈賞式 7/28) がご下賜される
- 平成18年 (2006年)
- 俊英書展2006、2006冬 (東京都美術館 1/23～29、12/19～24) を新鋭展、翔展の発展的改称として開催
 - 第20回記念産経国際書会代表展 (監事以上と選抜の評議員 上野の森美術館1/27～31)
 - 研修会 (愛知県犬山市・名鉄犬山ホテル 6/25～26)
- 平成19年 (2007年)
- 産経国際書会研修館設立 (群馬県甘楽郡 開館式 5/4)
 - 研修会 (群馬県甘楽郡・研修館 7/29～30)
 - 産経国際書展 (24回) を初めて東京都美術館で開催 (9/1～16)
- 平成20年 (2008年)
- 新春展Ⅰ、Ⅱを新しい国立新美術館で開催 (国立新美術館 1/23～2/4)
 - 第1回日中書交流を開催 (北京書法院 2/28)
 - 第1回熊本展 (熊本県立美術館本館 3/4～9)
 - 研修会 (熊本市・三井ガーデンホテル熊本 3/8)
 - 第25回産経国際書展 (東京都美術館 9/1～15) に中国大使館賞、韓国文化院長賞を新設 (贈賞式 9/10)
- 25周年記念事業として以下の2事業を開催—
- 女流代表展 監事以上の役員 (上野の森美術館 9/1～7)
 - 25年の歩み展 (上野の森美術館 9/1～7)
- 平成21年 (2009年)
- 産経国際書会北京研修館を開設 (北京・北京放送ビル10階 2/28)
 - 産経新聞で「墨と筆 産経国際書会だより」の連載開始 (第2、4金曜日 東京版朝刊)
- 平成22年 (2010年)
- 伊藤欣石先生が理事長に就任、齋藤香坡先生は名誉理事長に (4/19)
- 平成23年 (2011年)
- 東日本大震災被災者の会費免除等、優遇措置、災害見舞等を実施
 - 第28回産経国際書展贈賞式・祝賀会 (7/13) に高円宮妃殿下とともに、次女の典子女王殿下にもご臨席を賜る
- 平成24年 (2012年)
- 東日本大震災での原発避難対象地域で、避難生活を続けておられる会員への会費免除措置を継続
 - 産経国際書会30周年記念事業案の概要が決定。しかし、日中情勢を鑑み25年秋予定の『30周年記念北京展』、『女流展』の延期を決定、開催時期は未定。